

オンライン英会話の導入でアップした顧客満足度

高校入試の難化がきっかけに

——第一ゼミナールでは、オンライン英会話を使って指導されているそうですね。

清川 はい。外国人講師とマンツーマンでレッスンできるOLECOを、2017年に導入しました。その頃、大阪の高校入試は大学入試改革に先んじて、難しくなるという発表

たり、読解力を鍛えるだけでは、100点をとれなくなっている。高校入試の難化に合わせ、中学の定期テストも難しくなっていることを現場で実感。今までの教え方を見直し、会話表現を重視する必要があると感じていました。

——OLECOの採用には、そうした背景があったわけですね。

久保 本来は強制的に受講してもらったほうがいいと思つたのですが、嫌がる子や負担に感じる子もいるだろうなと思つたので、オプション的な位置づけで提供を開始しました。

また、オンライン英会話だけでは響かない可能性があるという懸念もあつたことから、メイツ

の時代で活躍するには、英語力は不可欠。英会話力を鍛える指導は、当社のビジョン「社会で活躍できる人づくり」にも合致していると感じます。

——指導とは別の問題ですものね。OLECOを導入した以降、現在の状況はいかがですか。

久保 OLECOの場合、苦労はほとんどなくなり、提供する側として安心感があります。講師の数も十分に足りていて質も良く、「先生によって教え方が違う」といったクレームもありません。

清川 1回25分は短いようですが、発話というレッスンは子供たちに大きなインパクトをもたらしています。自分が学んだ英語が伝わる喜び、ネイティブと話す楽しさといった経験が、英語学習に対するモチベーションにつながっているのです。以前、アンケートを採ったところ、満足度は予想以上に高い数字でした。

久保 当初は入試のための英会話でしたが、これか



新・英検® チャレンジコースでは、オンライン英会話「OLECO」でリスニング力とスピーキング力を育成する



第一教育本部の久保信輔本部長

があつたんです。実際、単語や文法を覚え

たり、読解力を鍛えるだけでは、100点をとれなくなっている。高校入試の難化に合わせ、中学の定期テストも難しくなっていることを現場で実感。今までの教え方を見直し、会話表現を重視する必要があると感じていました。



事業推進部 能力開発支援室の清川貴志室長

が提供している「英検® アプリ」と組み合わせてパッケージ化することにしたんです。すると英検のニーズとうまくマッチして、生徒数は年を追うごとに増えていきました。

——それはすごいですね。実際には、どのように使用されているのでしょうか。

清川 英検® アプリで英検対策演習を支援しつつ、年間44回で1回25分をOLECOで学んでもらっています。対象学年は、小学生から高校生まで幅広く対応

当初、OLECOは小中学生向けのサービスでしたが、2019年には高校生向けもリリースされました。それに合わせて当塾も対象を広げ、ボリュームゾーンは約半数を占めている小学生高学年となっています。

運用面でも品質面でも安心できる

——なぜOLECOを採用することに決めたのでしょうか？

久保 第一ゼミナールでは1997年より、英会話の授業を開始。外国人講師を採用し、小学生を指導していたんです。その後、2010年にオンライン化をおこないました。

——最後に今後の展望をお聞かせください。

久保 最近になって中学の単語帳(元灘中学校・高等学校教員 木村達哉先生監修)を自社開発したほか、英語の強化ゼミを作り、スピーキングとライティングの技術を生徒同士で磨いてもらっています。また英語力の測定アプリも試用してみるなど、これからも試行錯誤しながら、英語力の育成に力を入れてまいります。



メイツの英検® 対策アプリで一次試験の筆記・リスニングを徹底的に演習する

さらに学ぶ場は教室や家庭だけでなく、様々な場があります。今後は学びの在り方自体も、模索していきたいですね。